

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	EGFR 遺伝子変異陽性 pN1-2 肺癌術後の予後に関するシグナル経路・分子の解明
	研究目的	リンパ節転移を伴う EGFR exon 21L858R 点突然変異陽性(Ex21)肺癌は術後再発しやすいことが示唆されておりますが、なぜ再発しやすいかはわかっていません。本研究では Ex21 肺癌と同じ EGFR 遺伝子変異であっても予後が良いと言われている EGFR exon 19 欠失変異陽性肺癌の細胞シグナル経路を、逆相蛋白質アレイ解析という癌増殖に関連するタンパク質解析する機器を用いて比較解析します。これにより、Ex21 肺癌の癌増殖に関するメカニズムを見出し、新たな治療法の開発のための基礎的知見を得たいと思います。さらに、本研究では癌増殖に関連する RBM10 のタンパク質解析、RBM10 遺伝子変異解析も行います。
	研究対象者	2002 年 1 月から 2020 年 12 月に当センター呼吸器外科科にて原発性肺癌に対して手術を行った患者さんです。そのうち術後病理結果でリンパ節転移を受けた患者さんが対象となります。
	研究期間	西暦 2022 年 1 月 24 日～西暦 2026 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	伊坂哲哉
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	呼吸器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし